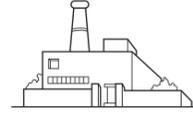


クリーンセンター建設に向けて



～クリーンセンター建設には、皆様のご理解とご協力が必要です～

今回は、8月19日、21日に開催した建設説明会の概要についてお知らせします。

建設計画などについて

- Q. 今回の候補地から距離的に離れた場所に住んでいますが、ごみ問題については他人事ではないと考えています。クリーンセンターは、長期間稼働することから、これからの地域を担う若い方の意見も十分に活かしながら、建設を推進することが大切だと考えますが。
- A. ごみ問題を、全市民が、自分自身の問題として捉えていただくように、今後、広報や啓発をすることが大切であると考えています。
- Q. 今回、建設候補地を決定するのに伴って、次の場所を今から考えていく必要があると考えます。
- A. 今は、全力を挙げて、今回のクリーンセンター建設に向けて努力することが大切であると考えています。

環境対策などについて

- Q. 具体的な施設計画と周辺環境への影響は、先にならないと分からないのですか。
- A. 具体的な施設整備計画などは今後の検討事項としています。また、周辺環境への影響に関しては、排ガスなどの基準について、法律で定められている環境基準よりも厳しい自主基準を設定する方針です。
- Q. クリーンセンター施設の安全性などの説明がありました。周辺環境面で、ごみ収集車・運搬車についても何か配慮を考えていますか。ごみの分別・減量を推進するための施策についてどの様なことを考えていますか。
- A. 現在、ごみ収集車・運搬車については、ディーゼル車がほとんどです。今後、ハイブリッド車、電気自動車が主流になってくると考えられます。本市のごみ収集・運搬業務は、全て民間業者に委託していますが、事業者にも協力を求め、環境に配慮していきたいと考えています。また、ごみの減量については、今年度廃棄物減量等推進審議会を設置し、今後2年間をかけて、ごみの発生抑制・減量のあり方について、さまざまな視点から検討する予定です。
- Q. 建設候補地の地元以外の地域における環境影響は、どのように考えられていますか。
- A. クリーンセンター施設規模などを考慮し、生活環境影響調査の調査範囲などについて、今後検討します。

ごみ処理とクリーンセンター

クリーンセンターは、皆さんの日常生活に欠かすことのできない基本的な都市サービス施設です。ごみ処理施設に負担がかかることの無いよう、ごみの排出抑制・減量化推進に、皆様のご理解とご協力をお願いします。

最新クリーンセンター見学会

最新技術を導入したクリーンセンター見学会をおこないます。ぜひ、参加ください。

- と き 11月24日(水)
- 集 合 木津川市役所東側駐車場 午前8時30分(市役所到着予定：正午)
- と ころ 枚方市東部清掃工場(大阪府枚方市 平成20年12月竣工)
- 対 象 市内にお住まいの方
- 定 員 35人(先着順)
- 申 込 11月19日までに、住所・氏名・年齢・連絡先を電話またはE-mailで清掃センター推進室へ。



今年度の取り組み

建設を推進しているクリーンセンターについて、今年度の取り組み事項をお知らせします。

- 生活環境影響調査に関する準備
生活環境影響調査の調査対象地域、調査項目および調査手法について検討し、調査計画書を作成します。
- 現況測量の実施
建設候補地について、その地形が複雑であることから、建設敷地境界の検討及び造成計画等の基礎資料となる現況測量を実施します。
- 施設配置の検討
今回のクリーンセンター施設の配置計画などについて考慮し、建設敷地の検討をおこないます。

問合せ まち美化推進課 清掃センター推進室
☎75-1215 Fax72-3900
E-mail: clean-center@city.kizugawa.lg.jp

建設説明会結果概要

8月19日午後7時から・21日午前9時30分から東部交流会館で、クリーンセンター建設説明会を開催しました。合計で43人の出席がありました。建設候補地の選定経過、クリーンセンターの必要性・緊急性や予定規模、今年度の予定事項などについて説明をおこなった後、ご意見・ご質問をいただきました。



主なご意見とご質問

建設候補地選定について

- Q. 以前に鹿背山に焼却場がありましたが、なぜ、再び鹿背山を候補地に選定したのですか。
- A. 現在燃やすごみの処理をしている打越台環境センターは、相当老朽化が進んでいます。また、学研地区などの宅地開発によるごみ量の増加により、処理しきれない状況です。新たなクリーンセンター候補地を選定するため、市内全域を対象に、白紙の状態から検討しました。候補地の選定条件を定め、5か所に絞込みをおこない、建設審議会において望ましい候補地について審議いただき、「鹿背山川向」との答申を受け、答申結果を尊重し、市として決定しました。施設においては、周辺環境に配慮した施設となるよう計画し、稼働後は周辺の皆さまにも活用いただけるような施設の建設に取り組むと考えています。
- Q. 地元住民の反対意思を無視しても、クリーンセンター建設は進めていくのですか。
- A. ご理解とご協力を求めています。
- Q. 昭和53年の覚書において、鹿背山には二度と清掃センターを建てないと書かれていると聞きましたが、本当でしょうか。
- A. 昭和38年に鹿背山に15t規模の焼却場を建設し、昭和54年までの17年間ごみを焼却していました。その後、昭和55年から打越台環境センターにて燃やすごみの処理をおこなっています。これに先立ち、昭和53年に、当時の木津町、山城町および精華町で覚書を交わしました。この覚書には、鹿背山に二度と焼却場を建設しないとの内容は記載されていません。行政として、自分たちの区域内で発生したごみは、区域内において処理することが原則ですので、選定作業を進めました。
- Q. クリーンセンター建設候補地の近隣である鹿背山区に対して、何らかの配慮は考えていますか。
- A. 建設を推進しているクリーンセンターは、ごみ処理をする機能だけではなく環境学習の拠点として活用したいと考えています。また、万一の災害時などにおいても、避難場所として活用することを考えています。地域住民の皆さまに、ご迷惑をかける施設を建設しようとは考えていません。今後、色々な議論をしながら、クリーンセンターについて、皆さんと理解を深めていきたいと考えています。

過去の候補地選定について

- Q. 以前、木津中央地区に建設候補地を選定されましたが、なぜ断念になったのですか。
- A. 木津中央地区の建設候補地にオオタカの営業があることが分かり、その保護のため、一定の結論が出るまで、建設に向けた取り組みができませんでした。また、UR都市機構による木津中央地区開発とクリーンセンター建設に係る時間的な調整が困難となるなどの理由により、木津中央地区における建設をやむを得ず断念しました。

ご意見

- 建設候補地について、これまで紆余曲折してきたと感じています。このことが、候補地地元区の不満や不信感につながっていると考えます。
- 安心・安全なクリーンセンターであることを広く啓発し、今回選定した候補地は、しっかりと受け止めることが大事だと思います。
- 建設審議会を傍聴していましたが、行政が決めるのではなく、審議委員において、慎重に議論され、公平・公正に建設候補地を選定されたと感じています。
- 建設候補地近隣住民だけでなく、全ての市民がごみ問題に関心を持ち、議論することが必要と考えています。
- かつての鹿背山工場は、臭気などにより、近隣住民は大変迷惑したと聞いています。しかしながら、最近建設されているクリーンセンターを見学して、これまでのクリーンセンターイメージとは全く違うことが理解できました。今後も、先進地見学会を開催してはどうでしょうか。